

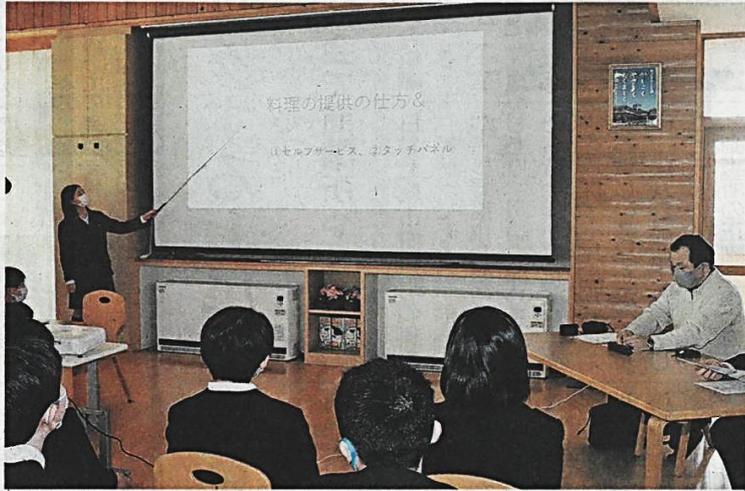
白山市美川地域で増加している空き家について、地元・美川小学校の六年生が二百、同校で地域住民に向けて、ユニークな「空き家の活用方法」を提案した。地域の活性化を目指して地元住民らでつくる「美川まちづくり協議会」が、児童らの提案を基に具体的な活用策を協議していく。

(青山尚樹)

空き家活用 子ども日線で

足湯やカフェ 美川小児童が提案

児童らは昨年六月から、美川地域に人口減少などに
より増加している空き家の
活用方法について議論。十
二月には、地域住民に向け
ての中間発表もあった。
児童ら約四十人が三グル
ープに分かれて「集中でき
るカフェ」「リラックスで
置く」「フィッシュを泳がせ
る」「カピバラのぬいぐるみ
を置いたりする個性豊かな
活用策を提案。児童らは



地域住民らに向けて空き家の活用方法を発表する児童＝白山市美川小で

まちづくり協 協議し具体化へ

「地域の人と触れあえる
場」「疲れたら休める場」
などを実現したいビジョン
を語った。
カフェや足湯を実現させ
るため、「野菜を育てる」
「チラシやメニューを作
る」「自転車で料理を運ぶ」
「施設のそとじをする」な
ど自分たちの得意分野で協
力できることも発表した。
協議会に協力している金
沢大で地域経営学を研究す
る篠田隆行准教授(五)は
「地域の活気には、住んで
いる人たちが楽しそうにし
ている事が何より大切」と
児童らにアドバイスした。
明断彩華さん(二)は「空
き家の活用でいろんな場所
から人が集まる地域の名物
がつくれたら」と話してい
る。協議会の二口伸也事務
局長(六)は「子どもたちの
意見を提案で終わらせず
に、何らかの形で実現した
い」と語った。協議会では
今後、三月の総会などで具
体的な空き家の活用策を話
し合う。